

を持つて居ない他の動物だつて、此生存競争の間に處して行くのには皆相當の心配をして、色々自分の身を全うしようと勉めるものであります。

(未完)

そろもんのちえ

むかし〜ユデアといふ國のソロモンと申した王様は、大層、智慧のあつた方だ相で、そのおはなしが、澤山、書物の中に残つて居ります。

(その一)

ある日のこと、ソロモン王の所へエジプトの國から、女王がお見えになりました。

此女王は、かね〜ソロモンの智慧の勝れて居るといふ評判を聞きまして、どうかなして、「一番凹せてやりたいと思つたのでせう、先づ、恭々しく、

大王の御機嫌をうかいつた後、まことに見事な二枝の花を出しまして、「これは、一方は眞の花で、一方は造り花でございますが、大王には、どれがどれだか、お手に取らないで、お分りになる御工夫がございますか」と申し上げました。勿論、其造り花といふのは、大變上手に出来て居るので、から、手に取らないでは、とても分る工風はありませなんだ。すると大王は、徐かに、左右の者に命じて、周圍の窓を開けさせました、所が折しも粉蝶が二三匹飛び込んで来て、眞の花に留りましたから、夫で、譯もなく言ひ當てました。